

平成29年度研究開発学校連絡協議会

平成30年1月12日（金）

研究開発 延長3年次



社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観を育むための12年間一貫カリキュラム開発を目指して



広島大学附属三原学校園



広島大学

# 報告骨子

## I. 研究開発の概要

## II. 課題解決のための取組

- 1 「希望（のぞみ）」の学習内容の12年間の系統化
- 2 自己開発に向けた評価方法の確立
- 3 「希望（のぞみ）」と「保育・教科」との関連の明確化
- 4 「希望（のぞみ）」と道徳、特活との関連の明確化

## III. 取組の実際と効果

- 1 資質・能力の経年変化（児童・生徒自己評価）
- 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace  
園児・小学生との交流活動を通して」

## IV. 研究開発から見えてきた今後の展望

## I. 研究開発の概要

### <研究開発課題>

社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観の体系的な育成のための、幼小中一貫の**新領域**を核とした自己開発型教育の研究開発

## I. 研究開発の概要

### <新領域「希望（のぞみ）」とは？>

☆新たなキャリア教育

**新領域「希望（のぞみ）」  
及び「希望（のぞみ）視点の保育」**

総合的な学習の時間の全ての時間

道徳・特別活動の10時間ずつ

## I. 研究開発の概要

### < 「希望（のぞみ）」の目標 >

社会的自立の基礎となる  
資質・能力 態度・価値の育成

新領域「希望（のぞみ）」  
及び「希望（のぞみ）視点の保育」

## I. 研究開発の概要

＜育成する3つの資質・能力と3つの態度・価値観＞

共生

自律

参画

人間関係形成・  
社会形成能力  
(関係を構築する力)

キャリアプラン  
ニング能力  
(なりたい自分になる力)

課題対応能力  
(達成へ向かう力)

## I. 研究開発の概要

### ＜延長前3年間（H24～H26）を終えての課題＞

①「希望（のぞみ）」における12年間の成長を見通した学習内容の系統性の確立が十分ではない。

②子どもたちが自己開発していくための評価方法（教師側と子ども側）の確立が十分ではない。

## I. 研究開発の概要

### <延長前3年間（H24～H26）を終えての課題>

③新領域「希望（のぞみ）」で培われた資質・能力と「保育・教科」で育成すべき資質・能力との相関性について明らかにできていない。

④「希望（のぞみ）」の中に、組み込まれた道徳や特別活動が見えにくい。

## I. 研究開発の概要

### <研究の柱>

「希望 (のぞみ)」  
の学習内容の12年  
間の系統化

自己開発に向けた評  
価方法の確立 (教師  
側, 子ども側)

「希望 (のぞみ)」  
と保育・教科の関連  
性の明確化

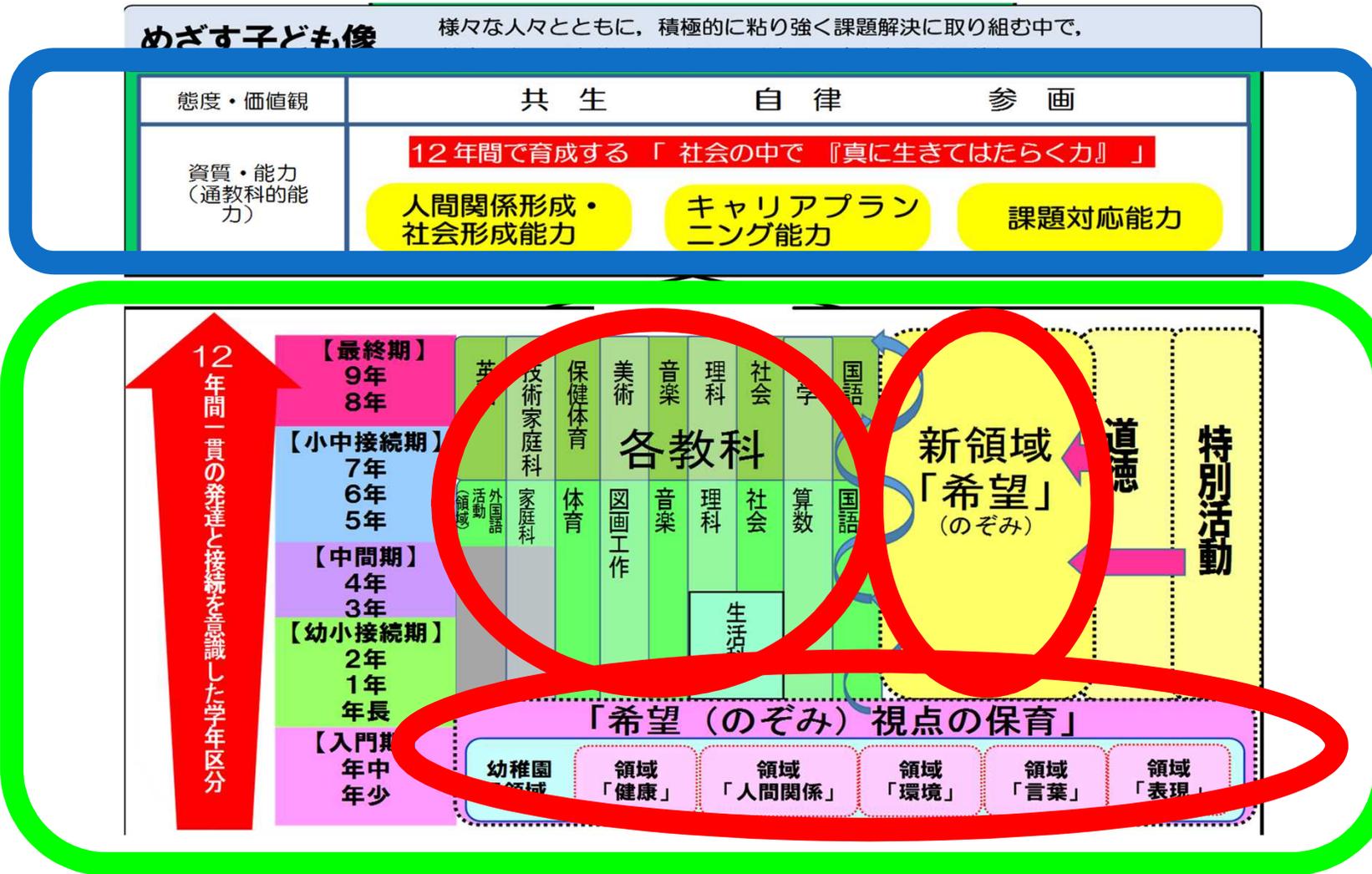
「希望 (のぞみ)」  
と道徳, 特別活動と  
の関連の明確化

### <研究の目的>

社会的自立の基礎となる資質・能力  
及び態度・価値観を育むための  
12年間一貫カリキュラムの開発

# 研究の概要

## < 教育課程構造図 (一部) >



通教科的能力

## I. 研究開発の概要

### ＜研究仮説＞

幼小中一貫の新領域を核とし、**教科等との関連を図りながら幼小中の接続期を重視した12年間一貫の自己開発型教育を開発実践することにより**、社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観を体系的に育成することができるであろう。

# I. 研究開発の概要



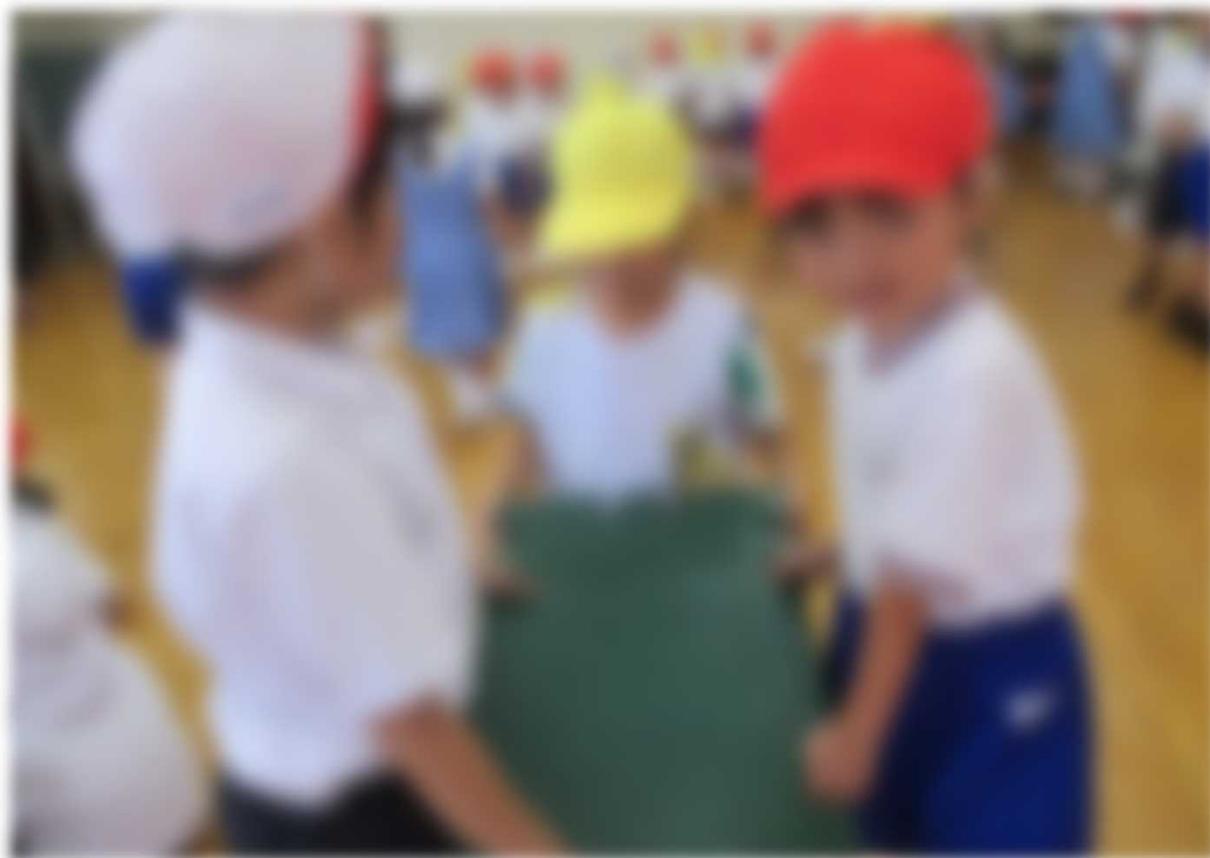
## I. 研究開発の概要

<年中「いっしょにやってみるって たのしいね〜>



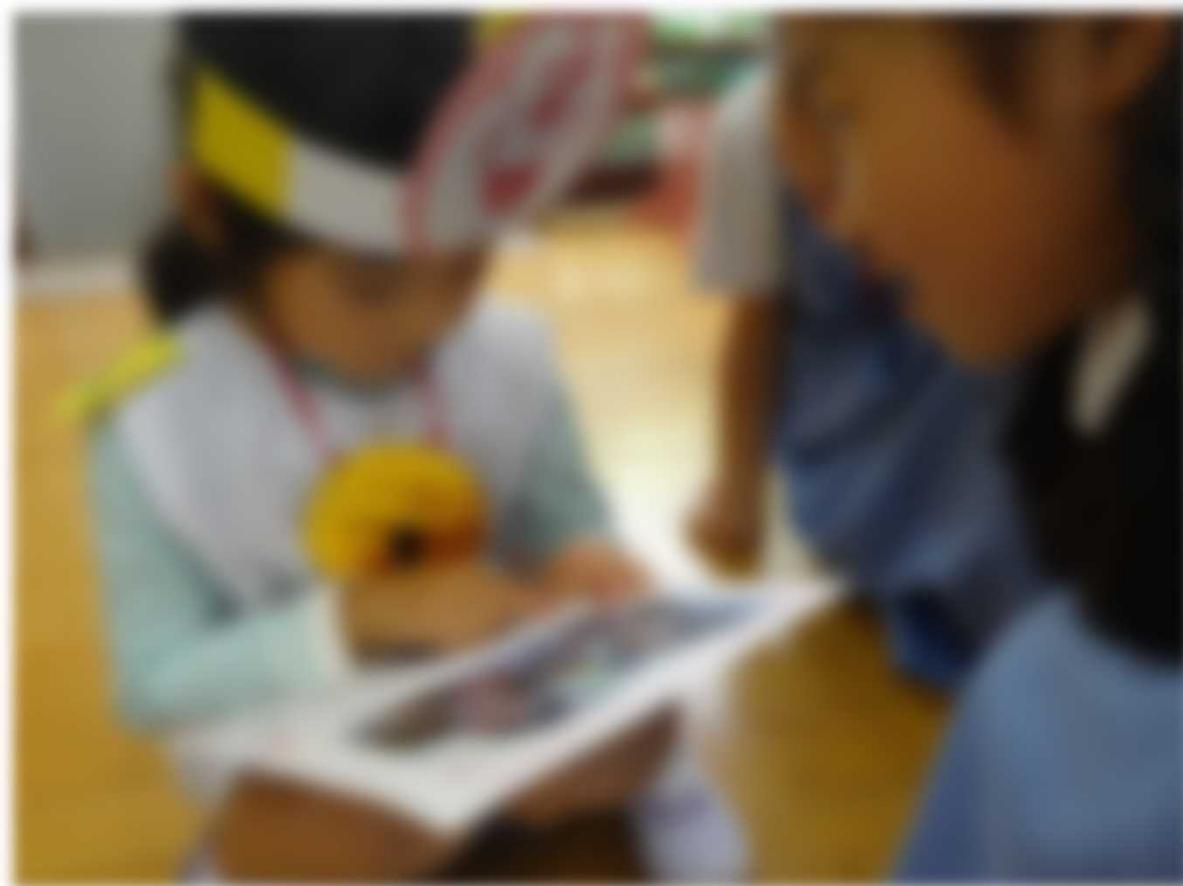
## I. 研究開発の概要

<年長，1年「みんなでいっしょに」>



## I. 研究開発の概要

< 4年「ペアさんとの交流」～ >



## I. 研究開発の概要

< 9年「ピースプロジェクト～平和への希望～」>



## I. 研究開発の概要

# めざす子ども像

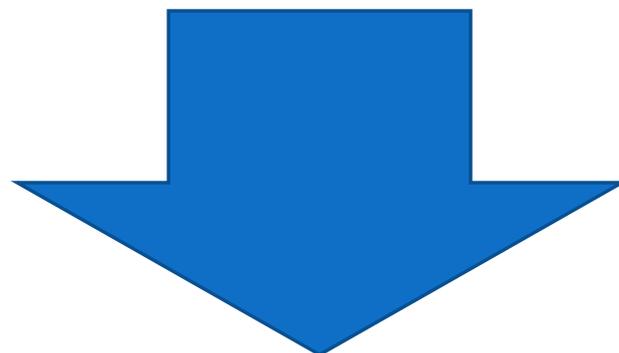
様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子ども

※「有為な人」…社会のために自らの能力を生かすことができる人

## Ⅱ. 課題解決のための取組

### ＜延長前3年間（H24～H26）を終えての課題＞

- ① 「希望（のぞみ）」における12年間の成長を見通した学習内容の系統性の確立が十分ではない。



## Ⅱ. 課題解決のための取組

### 「希望（のぞみ）」のカリキュラム系統の焦点化

学年区分	入門期 年少・年中	幼小接続期 年長・1年・2年	中間期 3年・4年	小中接続期 5年・6年・7年	最終期 8年・9年
発達の特徴	自我が芽生える時期		自分の学びを蓄える時期		自分を見つめ広げる時期
指導方針	多様な体験の積み重ねの重視	小さなことにも粘り強く取り組む体験の重視	今までの経験を思い出し、立場を変えて考える場の重視	知識・思考スキル等を思い出し、自ら使う問題解決の重視	社会のために経験を統合した問題解決の重視

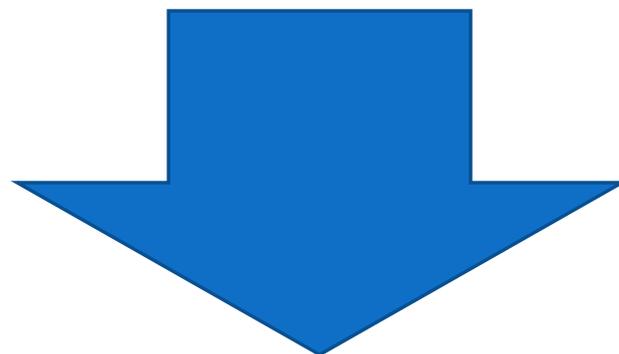


発達の特徴を基に12年間の系統性を考えた活動・単元の開発・実施

## Ⅱ. 課題解決のための取組

＜延長前3年間（H24～H26）を終えての課題＞

②子どもたちが自己開発していくための評価方法（教師側と子ども側）の確立が十分ではない。

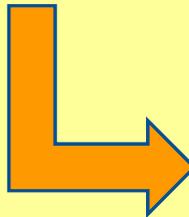


## Ⅱ. 課題解決のための取組

### 2 自己開発に向けての取組

主体的に自己を成長させる評価方法の開発・検証

12年間一貫ルーブリック表に基づいて、単元レベルのルーブリックを作成



OPPA (ワン・ページ・ポートフォリオ評価)

# II. 課題解決のための取組

## 2 自己開発に向けての取組

人間関係形成・  
社会形成能力

課題対応能力

キャリア  
プランニング能力

通教科的  
能力の  
ルーブリック

子どもの活動場面での評価

学年区分

学年区分	表現・能力 (通教科的能力)	評価規準	1 人間時	2 年少段階	3 年中段階	
		自分の思いを友だちと伝え合ったり、相手の思いに気づき、自分で考えて行動しようとする。	【人と関わっている場面】 相手と関わろうとせず、相手に自分の思いを伝えようしない。	【人と関わっている場面】 相手によっては、自分の思いを伝え合うことができる。	【人と関わっている場面】 相手によっては、相手の様子を見ながら、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりすることができる。	
		共通の目的に向けて、友だちと協力して考えたり、試したりしようとする。		【好きな遊びの時間でやりたいことを見つけたとき】 論議してやらなかったり、あきらめたりする。	【好きな遊びの時間でやりたいことを見つけたとき】 目的に興味をもって自分で考えたり、試したりする。	
		当番活動や椅子整理などをやる中で、やり方や考えたことを様々な方法（動きや言葉等）で相手に伝えようとする。	自分のことで精いっぱい、相手のことは思いが及ばない。	身近な友だちのためにやることをやってみて、周りから認められることは喜びを感じることができる。	身近な友だちのためにやることを見つけてやってみて、周りから認められることは喜びを感じることができる。	
<p>身近な集団や社会の中で、課題解決に向けて多様な方法からより適切な方法を選び、自ら目標を決め、最後まで行動することができる。</p>						
目標を決め、計画する。		方法を選ぶ。		行動する。		
課題解決に向けて適切な目標を決め、計画することができる。		課題解決に向けて多様な方法から適切な方法を選ぶことができる。		多様な方法から適切な方法を自ら選び、進んで課題解決に向けて行動することができる。		
実行できない計画を立てている。 ●目標を決めたり、計画を立てたりできない。		適切でない(妥当性や実行性に欠けている)方法を選んでいる。 ●方法を考えられない。		途中で活動をやめている。他の人の指示で行動している。 ●行動していない。		
指導や援助が必要な場 合(●重点的に指導)	●相手の立場や気持ちを踏まえていない発言をする。 ●自分の考えが発表できない(発表しない)。	●協議していない。相手の意見を繰り返しているだけである。 ●相手の意見を聞いていない。	●相手の話を耳を傾けているが、自分の考えは言わない。 ●発言していない。安易に同調する。	●とができていない。課題解決に向けた目標を決められていない。計画を立てることができていない。あるいは実行できない計画を立てている。 ●共通しが持っていない。全体のイメージができていない。 ●目標を決めたり、計画を立てたりできない。	●自分で行動している。目的なく行動し、こなすだけになっている。 ●行動していない(活動していない)。	●自分の役割や仕事を理解していない。 ●自分の役割や仕事に取り組んでいない。 ●活動について振り返りができない。振り返りを書いている。





## Ⅱ. 課題解決のための取組

キーワード

なりたい自分 (before)

- ・目標
- ・計画, 修正
- ・挑戦
- ・最後まで

7年生の姿

身近な集団や社会の中で、課題解決に向けて多様な方法からより適切な方法を選び、自ら目標を決め、最後まで行動することができる。

課題対応能力を視点到

課題対応能力

考えを重ねて、当日失敗したりまちがってしまいうるなことを考えて何度も修正する。これはどうか、あれはどうかと挑戦しながら取り組んでいく。

自分

個人の目標  
集団の目標

班

修学旅行を成功させるために目標を常に持ち最後まで計画を確認し、修正しながらより良い計画を立てる!!

1	4/15	本時の課題	①見直しをもつ。 ②なるべく自分を考える。	評価	2
<p>◎今日の活動で発見したこと、感じたこと、次の自分しおりなど、作るのが大変な担当は、何度も修正を重ねないといけないと思っうのを、実季として班のこごとに合わせて、マわていいのかが、というのを考えるようにしたい。おもてなし担当なので、作るだけではない気持ちでも伝えるようにしたい!!</p>					

2	4/20	本時の課題	修学旅行の目的を達成するための班別計画を立てる。	評価	3
<p>◎今日の活動で発見したこと、感じたこと、次の自分初めての活動で、交通係と行きたい場所係に分かれて行きた。拝観料、バスの時間のことなど調べるのが、たくさんあったが、最後まであきらめずに調べられた。◎どこが歴史を学べるかを考えながら、次の時間に取り組みたい。実季では全体を見ないといけないので区別してがんばりたい。</p>					

主体的に自己を成長させる  
評価 O P P A

## II. 課題解決のための取組

### 2 自己

毎時間の振り返り

教師からのフィードバック

6	5/9	本時の課題	完ぺきな計画を立てる	評価	3
◎今日の活動で発見したこと、感じたこと、次の自分 今日は主に仕上げの作業をした。今まで何度も何度も練り直した計画を見直し、本当はこれぞ良いのか最後まであきらめずに考えられました。多分、予想外の出来事が起こると思います。そのときは臨機応変に対応し、実季としても班員としても役に立てるように努力していきたいです。					
!! ③ 当日、以下は発見と修正できるかが大切					

主体的に自己を成長させる評価  
OPPA

## II. 課題解決のための取組

### 2 自己開発に向けての取組

これまでの振り返りを見ながら自分の変容を見つめていく。

「奏でよう！ 自分物語 ～京都旅情編～」を終えて

「実行委員としての学び」の  
奥書では、みんなの目線から見て  
どう思っているか考えて行動する  
ことを学びました。例えば「班  
長さんが今、大変そうだな」と感じ  
た時、アドバイスをしました。そうする  
と、指示通りにスムーズに進みました。  
それぞれの式や反省会では、  
意味を考えたから+2.5加  
えて伝わりやすくなるよ  
う努力しました。

「個別自主研修としての学び」  
私の班は見る時間が学び  
予想以上に短く、できてしま  
いだい早く駅に着いてしま  
りました。そこで学んだのは  
予定通りに行くことも大  
切だけれど、自由に思い、自分  
たちだけで行動すると周りの  
の気持ちが変わることです。

修学旅行としての学び

「集団としての学び」  
私たちは周りに気を使っている  
ことに1日目、2日目の反省会ぞ気づき  
ました。反省会せ、ただ報告をするので  
はなく、こうや、たら上手くい、たこ  
となどこれからに生かすことのでき  
る反省を言うもみんなにとって意味  
のある反省会になると思っています。学  
んだことは、自分にとって大切なこと  
で今まで気づかなか、た発見が見つけ  
られ、より成長できるということです。

（先生方、  
3日間私たちに  
支えてくださりあ  
りがとうござい  
ました。先生方のお  
かけで、より良い修  
学旅行になりました。  
自分自身も自分の  
力を出せることができ  
ました。日々の生活に  
生かせるように努力  
していきます。）

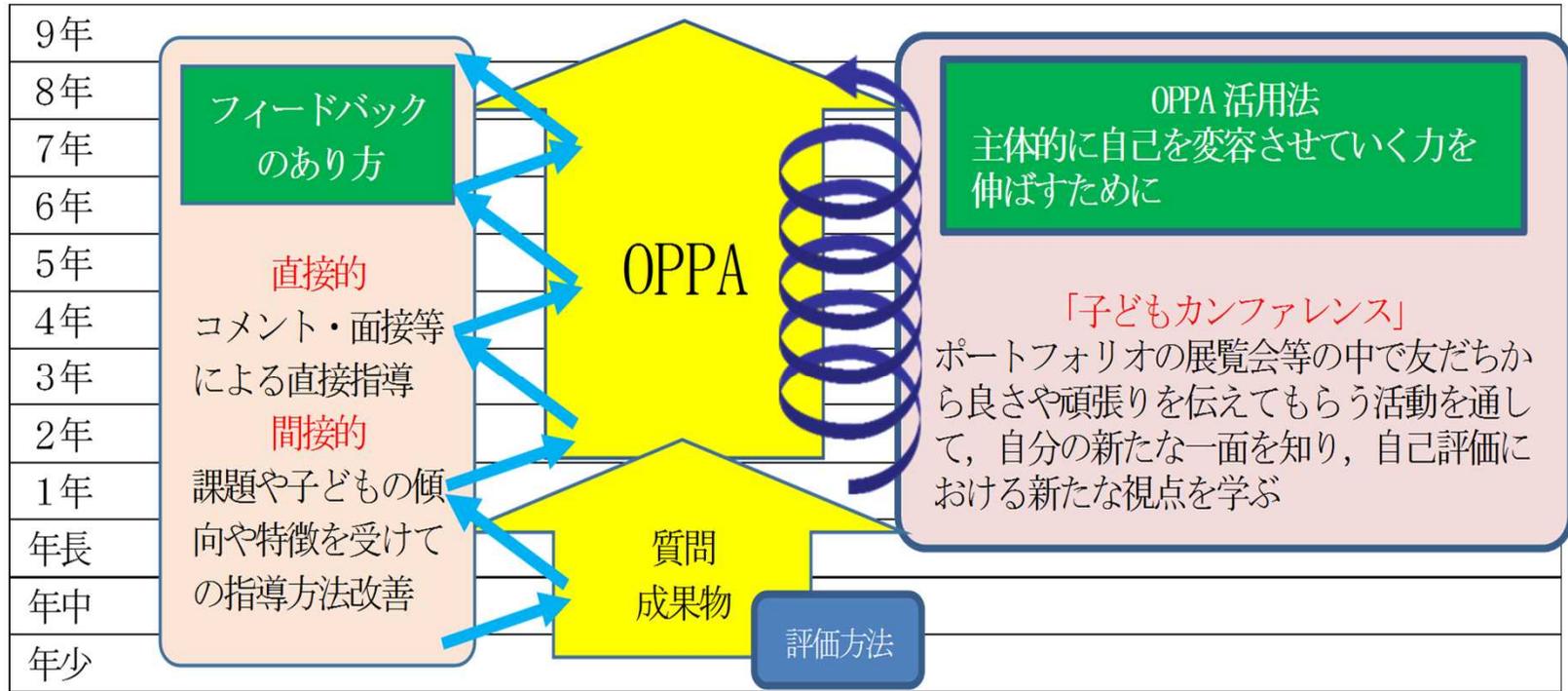
修学旅行、よく頑張った。そして、奥書として、本当によくおこってくれました。奥書として、臨機応変に対応し、日々成長していく姿は、見ていてとても嬉しかった。今回の修学旅行を通して、Oさんが成長したこと、振り返りから伝わり、できました。集団として大切なこと、私たちがたくさんの方々の心配りによって生活できていること、修正していくこと、どれもすごく大切なことだね。これからの生活の中で、これらのことを大切にして、行動に移し、いい空気を作ることで、できる集団へと6年生が成長することを先生はこれからも楽しみにしています。Oさんの力頼りにしています。

主体的に自己を成長させる評価 OPPPA

## II. 課題解決のための取組

### 2 自己開発に向けての取組

主体的に自己を成長させる  
評価方法の開発・  
検証

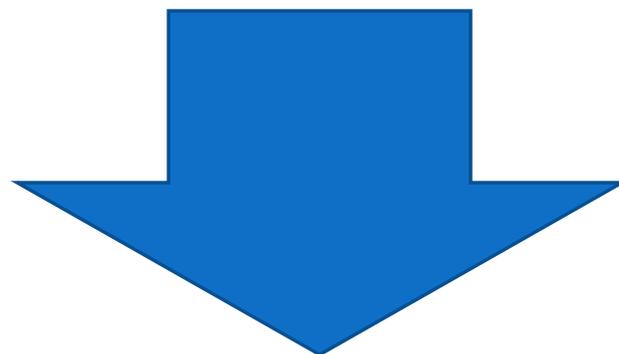


自分の課題を踏まえて目標を修正し自ら学びをつくっていく姿が見られた

## Ⅱ. 課題解決のための取組

### <延長前3年間（H24～H26）を終えての課題>

③新領域「希望（のぞみ）」で培われた資質・能力と「保育・教科」で育成すべき資質・能力との相関性について明らかにできていない。



## II. 課題解決のための取組

### 3 「希望（のぞみ）」と「保育・教科」との関連を図る取組

表10 通教科的能力と保育・教科の本質

各教科等	めざす子ども像	保育・教科の本質	人間関係	通教科的能力
〔希望〕 〔希望〕	様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子ども。 様々なものや人にかかわり、自分なりに気づいたり考えたりしながら、自信をもって粘り強くやってみる子ども。	○自ら健康で安全な生活をつくり出す力。 ○身近なものや自然に興味をもってかかわり、それらを生活に取り入れる力。 ○身近な人と親しみ、かかわりを深める力。 ○自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を聞こうとしたりする力。 ○豊かな感性をもち、様々な方法で表現する力。	○相手のことを判断し、相手の立場や気持ちに寄り添うことができる。 ○思いを伝え合い、よりよい関係を築くことができる。	○相手のことを判断し、相手の立場や気持ちに寄り添うことができる。 ○思いを伝え合い、よりよい関係を築くことができる。
				○相手のことを判断し、相手の立場や気持ちに寄り添うことができる。 ○思いを伝え合い、よりよい関係を築くことができる。
〔希望〕 〔希望〕	様々なものや人にかかわり、自分なりに気づいたり考えたりしながら、自信をもって粘り強くやってみる子ども。	○自ら健康で安全な生活をつくり出す力。 ○身近なものや自然に興味をもってかかわり、それらを生活に取り入れる力。 ○身近な人と親しみ、かかわりを深める力。 ○自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を聞こうとしたりする力。 ○豊かな感性をもち、様々な方法で表現する力。	○相手のことを判断し、相手の立場や気持ちに寄り添うことができる。 ○思いを伝え合い、よりよい関係を築くことができる。	○幼稚園のみんなと一緒に過ごすために必要な生活の仕方を知り、自分たちで整えることができる。 <b>（自分たちで生活の場を整える力）</b>
				○幼稚園のみんなと一緒に過ごすために必要な生活の仕方を知り、自分たちで整えることができる。 <b>（自分たちで生活の場を整える力）</b>

保育・各教科

**通教科的能力**

通教科的能力と保育・教科の資質・能力等との関連表

## II. 課題解決のための取組

### 3 「希望（のぞみ）」と「保育・教科」の関連を図る取組

通教科的能力	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
教科の本質に根ざした資質・能力	造形活動意欲 新しい者との描いた話などが	自分 いた こ 味づ	③驚いたり とを繰り返 ることが ①②思い 分なりに て、描い とができ
入門期 年少 年中	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
幼小 接続期 年長 1年 2年	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
中間期 3年 4年	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
学年区	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力

人間関係形成・  
社会形成能力

キャリア  
プランニング能力

課題対応能力

図画工作科  
資質・能力系統表

保育・教科の本質に根ざした資質・能力系統表の作成

## II. 課題解決のための取組

### 3 「希望（のぞみ）」と「保育・教科」の関連を図る取組

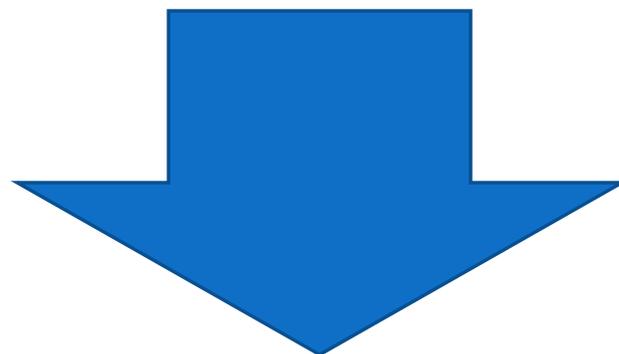
通教科的能力	人間関係形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
教科の本質に根ざした資質・能力	人間関係形成・社会形成能力 作品などを通して自分と向き合い、異なる価値観を尊重しながら通して、自己の考えや価値観を表現し、他者とのつながりや協働を創り出すことができる。また、自己の考えや価値観を表現し、他者とのつながりや協働を創り出すことができる。	キャリアプランニング能力 自己の将来の夢や目標を明確にし、その実現に向けて必要な知識やスキルを習得し、自己の強みや得意分野を活かして、社会で活躍することができる。	課題対応能力 課題を分析し、解決策を提案し、実行することができる。また、自己の考えや価値観を表現し、他者とのつながりや協働を創り出すことができる。
具体的な姿	作家研究をもとに作成した「〇〇スタイル」の小作品について、説明し合うことで、美術に関する見方や考え方を広げることができる。	展覧会を開催し、他者と楽しく交流する活動を通して、造形作品のよさを実感し、自分の考えをさらに発信したいと考えるようになる。	作家研究をもとに、小作品の主題や技法を発想し工夫して表現したり、粘り強く展覧会の成功に向けて取り組んだりすることができる。

図画工作科  
題材で育む資質・能力

## Ⅱ. 課題解決のための取組

＜延長前3年間（H24～H26）を終えての課題＞

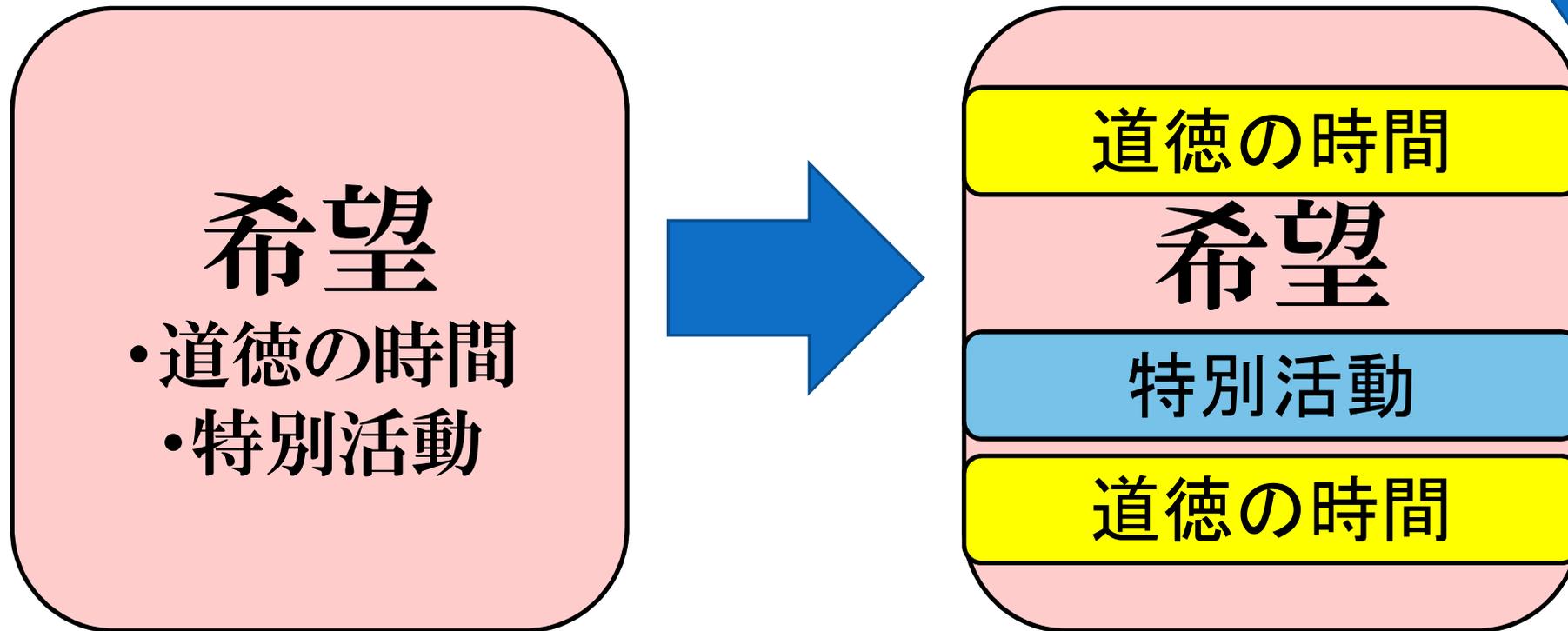
④「希望（のぞみ）」の中に，組み込まれた道徳や特別活動が見えにくい。



## Ⅱ. 課題解決のための取組

### 4 「希望（のぞみ）」と道徳，特活との関連を図る取組

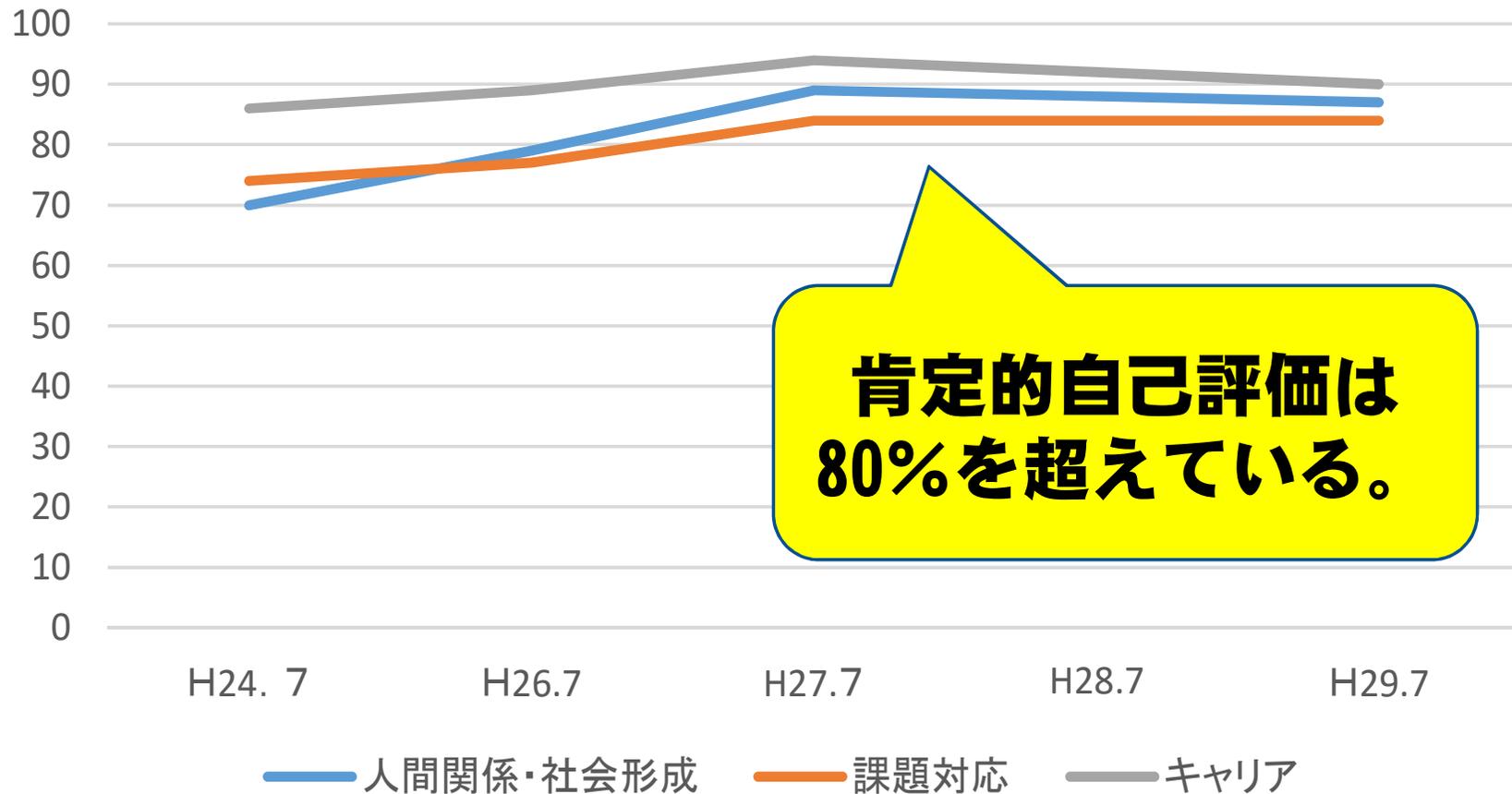
#### ★「希望（のぞみ）」プログラムとは？



道徳、特活の「見える化」

### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 1 資質・能力の経年変化（児童・生徒自己評価）



### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace

### 園児・小学生との交流活動を通して」

道徳（家族愛）

運動会に向けて計画を立て、準備や練習をする。（第1～5時）

特活（多様な集団生活の向上）

園児さんとの触れ合いを経て、今の自分や集団を振り返る。（第6時）

保護者へのインタビューを終えて、その内容を共有し、そのアドバイスの活かし方を考える。（第8時）

特活（多様な集団生活の向上）

園児さんとの運動会種目「お兄さんお姉さんと一緒」を終えて、第6時で考えた輝いた個や集団になれたかを振り返る。（第10時）

### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace

園児・小学生との交流活動を通して」

- 異学年の特徴を理解し，相手に応じたコミュニケーションの取り方を模索する。

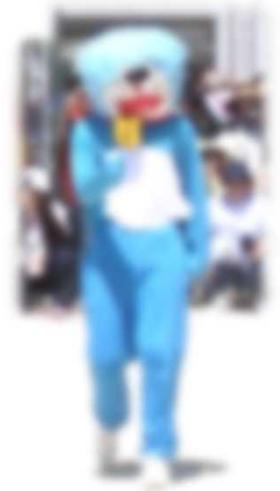
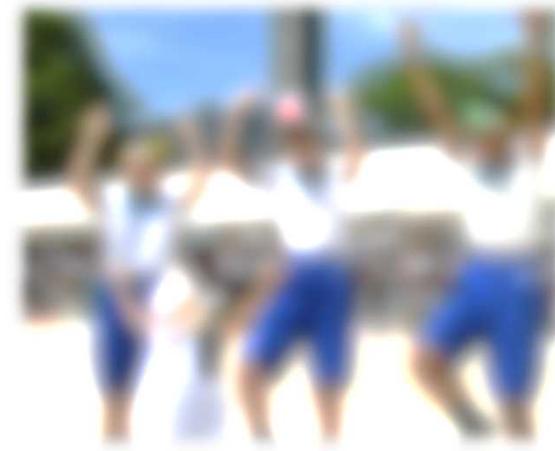
→人間関係形成・社会形成能力の向上

- ◎園児さんの心をつかむために…

♪曲選び ♪ダンス創り

♪プレゼント&グッズ作り

- ◎保護者の方にインタビュー



### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace

### 園児・小学生との交流活動を通して」

道徳（家族愛）

運動会に向けて計画を立て、準備や練習をする。（第1～5時）

特活（多様な集団生活の向上）

園児さんとの触れ合いを経て、今の自分や集団を振り返る。（第6時）

保護者へのインタビューを終えて、その内容を共有し、そのアドバイスの活かし方を考える。（第8時）

特活（多様な集団生活の向上）

園児さんとの運動会種目「お兄さんお姉さんと一緒」を終えて、第6時で考えた輝いた個や集団になれたかを振り返る。（第10時）

### Ⅲ. 取組の実際と効果

道徳との関連  
(C-14家族愛)

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace 園児・小学生との交流活動を通して」



園児の保護者へインタビュー

### Ⅲ. 取組の実際と効果

道徳との関連  
(C-14家族愛)

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace 園児・小学生との交流活動を通して」 園児の保護者へインタビュー後は…



笑顔が増えたね。

園児さんとの距離が縮まったね。



### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace

### 園児・小学生との交流活動を通して」

道徳（家族愛）

運動会に向けて計画を立て、準備や練習をする。（第1～5時）

特活（多様な集団生活の向上）

園児さんとの触れ合いを経て、今の自分や集団を振り返る。（第6時）

保護者へのインタビューを終えて、その内容を共有し、そのアドバイスの活かし方を考える。（第8時）

特活（多様な集団生活の向上）

園児さんとの運動会種目「お兄さんお姉さんと一緒」を終えて、第6時で考えた輝いた個や集団になれたかを振り返る。（第10時）

### Ⅲ. 取組の実際と効果

#### 特活との関連

(1)ウ 多様な集団生活の向上

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace

### 園児・小学生との交流活動を通して」

- ・ 仲間との関係をたいせつにできるようになった。
- ・ みんな笑顔でとても明るいクラスになったね。
- ・ 何かを達成するために協力できる集団になった。



### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace 園児・小学生との交流活動を通して」 (1/2面)

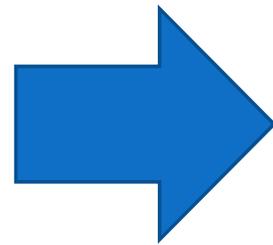
2	5/15	課題	小学生に分かりやすく工夫しながらダンスを教える。	評価	A
人・課・キ					
小学生に教えてみて、中学生だったら「全部左から」で覚えられるけど、小学生はどうしても前の人を見てしまって前の人のをして、左右が反対になってしまいました。そのときは、反対だよ、とか「横の人を見て」とか工夫して教えることができました。次園児さんに教えるときもそういうことに気をつけ					

人間関係形成・  
社会形成能力

### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace 園児・小学生との交流活動を通して」

キョトン…



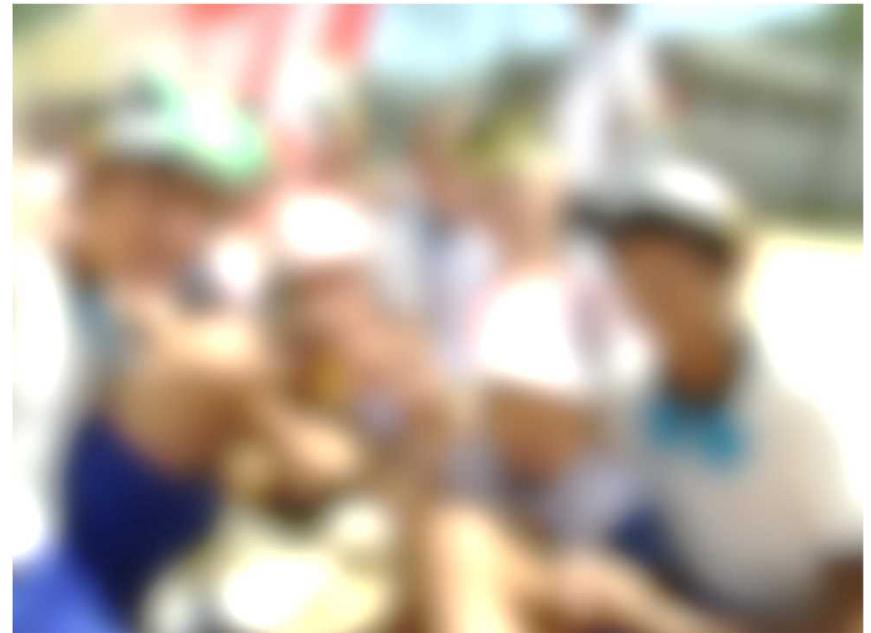
両手をギュッとつかんで満点スマイル★

### Ⅲ. 取組の実際と効果

## 2 第8学年「『夢を志に』 Piece and Peace 園児・小学生との交流活動を通して」



まだまだ距離が…



距離がグンと縮まった♪

## IV. 研究開発から見えてきた今後の展望

- ①「希望（のぞみ）」で培った指導法を汎用性を明らかにする。
- ②自己評価活動と他者評価活動を融合させた評価方法の実践。
- ③総合的な学習の時間，道徳，特別活動を関連させることで，「価値の実践の場」となる授業展開の工夫

ご清聴  
ありがとうございます  
ございました